

## 2025 年度九州・沖縄支部集会開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会  
開 催 日：2025 年 7 月 5 日（土） 10:10～16:30  
会 場：立命館アジア太平洋大学  
参加人数：73 名（会員 41 名、一般 27 名、関係者 5 名）

2025 年度第 1 回支部集会【九州・沖縄支部】を 7 月 5 日（土）に立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）にて開催しました。午前「口頭発表」3 件と「ポスター発表」3 件、午後「口頭発表」3 件と「ポスター発表」2 件、その後「交流ひろば」7 件を対面で実施しました。

午前の部の口頭発表において、水戸貴久氏（立命館アジア太平洋大学）による「ミャンマー一人介護人材の来日動機に関する考察」、日下部龍太氏（精華大学・中国）による『満州国』の日本語教科書、高村めぐみ氏（愛知大学）による『機能に相応しい発話』に対する聴覚印象の相違—中国人学習者と日本語母語話者の比較—の 3 件の発表が行われました。同時に、ポスター発表が 3 件出展されました。午後の部の口頭発表においては、大河内瞳氏（神戸大学）による「外国籍等の人々の生きづらさ軽減に向けた施策の提言」、成利楽氏（立命館アジア太平洋大学）による「日本語教育における多聴教材作成の開発—中級の学習者を対象に—」、天野裕子氏（沖縄大学）による「都市間の共通点が生み出す国際交流の可能性—沖縄・ダナンにおける COIL 型教育の実践から—」の 3 件の発表が行われました。同時に、ポスター発表が 2 件出展されました。午後の口頭発表とポスター発表の終了後、14:50～16:20 に「交流ひろば」7 件の出展がありました。

実施後のアンケートは回答数が少なかったのですが、全体的に「大変満足」、「満足」の回答をいただきました。今回は地元の高校生も当事者として発表に参加するなど、開催地が大分県別府市であったからこそこの発表があり、「今回のように地域を巻き込んだ発表があったらいい」というご意見もいただきました。一方、今年は口頭発表の件数を増やしたのですが、会場の都合により、口頭発表とポスター発表を同じ時間帯に行うこととなりました。そのため、すべてを見ることができなかったというご指摘をいただきました。ですが、口頭発表を増やしたおかげか、昨年度は 49 名の参加者でしたが、今年度は 73 名となりました。九州・沖縄地区以外からの参加もありました。対面で開催できたことにより、本集会が、参加者の交流の場、また再会を喜ぶ場となっていると改めて感じました。

今回、立命館アジア太平洋大学を会場としまして、会場設営、マネジメント、緊急対応、撤収等を会場校の運営協力の先生方にご協力いただきました。また、交流ひろばの時間に新しくできた J 棟の案内と SALC（言語自主学习センター）の案内、そして言語自主学习センターにおいてフィンランド人の学生から学生の母語であるフィンランド語の紹介をしてもらうというツアーを企画していただき、開催校の言語学習環境の一部についても知ることができました。この場を借りて、ご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆様に心より感謝いたします。

（報告者 支部活動委員：埴田美有紀，小柴裕子，九州・沖縄支部運営協力：本田明子，寺嶋弘道，新城直樹）